

鬼のいない恵の家が急造した鬼は写真のようにちょっと迫力が足りなかったかもしれないですね。利用者さんもニコニコして追い払うこともなくじゃれあってしまいました。

節分の恵方巻は関東でもすっかり定着しました。利用者さんものり巻きを喜んでくれましたが、恵方巻は大きすぎなので小さく切って提供しました。関西では恵方巻の歴史が古く、恵方を向いて丸がじりして無言で食べきるそうですが、そんな風に食べている人を私はまだ見たことがありませんが、来年は恵方を向いて黙々と食べながら願掛けをしてみようと思います。



その
1

「思い」や「願い」を大切にします

～可能な限り在宅で暮らすことを支えます～

誰もが年をとっても介護が必要になっても、住み慣れた自宅や地域の中で家族や親しい人たちとともに、最後までその人らしい人生を送りたいと願っています。
小規模多機能型居宅介護は、そうした在宅での生活を送り届けたいという高齢者や家族の願いに応えます。

〇〇したいの実現

持っている力の活用

生活の継続性

本当は誰もが望んでいる生活



「小規模多機能型居宅介護」

が
平成19年4月に介護保険の
地域密着型サービスのひとつとして制度化されました。

介護相談窓口

「介護＝施設」というイメージが強いと思いますが、介護が必要になっても「自宅で」「暮らしなれた地域で」という考え方もあります。それを可能にする選択肢の一つとして、恵の家にもある「小規模多機能居宅介護」というものがあります。

要介護認定を受けるケースとして、病気やケガなどによる入院がきっかけになることが多いようですが、生活の中で思うようにできないことが増えてきたり、手伝ってくれる人がいればできるのに…。年齢を重ねれば誰でもそんな思いになる事はあると思います。そんな段階から介護サービスを使って自宅で長く暮らし続けることはできると思います。介護を受けることが「諦め」ではなく、自分らしい生活を送るための「希望」になる事もあると思います。恵の家は暮らし方の選択肢が広げられるようにご相談もお受けしますので、お気軽にお声がけください。